

第2次湖西市 子ども読書活動推進計画

— いつでも どこでも 本となかよし —



湖西市教育委員会

平成28年3月

目 次

第1章 基本方針

- 1 計画の目的 1
- 2 第1次計画における取り組み状況 1
- 3 第2次計画の位置づけ 2
- 4 第2次計画の施策の方向 3
- 5 第2次計画の期間 3

第2章 子ども読書活動推進のための具体的な取り組み

- 1 家庭における子ども読書活動の推進 4
- 2 地域における子ども読書活動の推進 5
- 3 保育園・幼稚園における子ども読書活動の推進 5
- 4 学校における子ども読書活動の推進 6
- 5 図書館における子ども読書活動の推進 7
- 6 啓発・広報等における読書活動の推進 7

湖西市子ども読書活動推進計画策定委員会

- 委員名簿 8

子ども読書活動推進計画策定委員会会議録

- 第1回 9
- 第2回 9
- 第3回 11
- 第4回 12
- 第5回 13



第1章

基本方針

1 計画の目的

この計画は、「子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力豊かなものにし、人生を深く生きる力を身につけていく上で、欠くことのできないものに鑑み、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動ができるよう積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」という「子どもの読書活動の推進に関する法律」の基本理念に則り、行政と市民とが協働して子どもの成長に資することを目的として、平成23年2月に策定した「湖西市子ども読書活動推進計画」の現状や課題を踏まえて、第2次計画を策定するものです。

2 第1次計画における取り組み状況

第1次計画の施策に基づき、関係機関が役割を認識し、読書活動を推進する環境づくりを行いました。

【家庭における子どもの読書活動の推進】

図書館において、4か月児(平成27年度からは6か月児)とその保護者を対象に、絵本を介して親子でふれ合うことの大切さを伝える **ブックスタート※1** を行いました。ブックスタート後も継続して本と親しんでもらえるよう、「子どもとたのしむ絵本リスト」を配付して家庭での読書への関心を高めてきました。



【地域における子どもの読書活動の推進】

地域の公共施設では、図書コーナーの設置や読み聞かせの実施など、読書に関わる取り組みがされました。就園前の子どもを対象に市内5会場で実施されている **にこにこ広場※2** では、読み聞かせの時間を設け、継続して読み聞かせを行いました。子育て支援センターでは、**わくわく広場※3** のびのび預かり保育事業※4 などで読み聞かせをしたり、絵本をもとにした **ペープサート※5** などを取り入れ、絵本に親しむことができました。2歳児対象の **ふたば学級※6** では、絵本をテーマとして講座を開催しました。

※1 「ブックスタート」……赤ちゃんと保護者が肌のぬくもりを感じながら言葉と心を通わすかけがえのないひとときを絵本を介して持つことを応援する運動。本市でも、地域で生まれた赤ちゃんの健やかな成長を願って、平成14年度からブックスタートパック(絵本、絵本リスト、バッグ)を手渡している。

※2 「にこにこ広場」……親子が共に遊び、交流し、いきいきとしたふれあいの時間を過ごしたり、子育てに関する悩みなどを気軽に相談できる場所を提供している。

※3 「わくわく広場」……親子が安心して遊び、語れる場であるよう絵本や玩具を用意している。

※4 「のびのび預かり事業」…子育て支援センターで、保育士が一時的に子どもを預かる事業。

※5 「ペープサート」……紙人形劇のこと。人物の絵などを描いた紙に棒をつけたものを動かして演じる。

※6 「ふたば学級」……2歳児をもつ保護者とその子どもを対象にした子育て学習会。社会教育課で実施している。

〔保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進〕

保育園や幼稚園では、子どもの年齢（発達）に応じた絵本の読み聞かせが日常的に行われ、絵本に触れる機会を大切にしてきました。絵本をテーマにした教育講演会の開催、家庭への絵本の貸出などで読み聞かせの大切さを保護者に伝え、家庭で絵本を読む機会を増やしました。

〔学校における子どもの読書活動の推進〕

市内小・中学校、高等学校で、朝読書やボランティアによる読み聞かせの実施など、本に触れる機会が定着してきました。平成26年度から、**学校司書**^{※7}が学校図書館を巡回して図書館の整備や調べ学習、読書活動の支援を行いました。学校司書の配置により、児童生徒が利用しやすい環境が整ってきており、司書による読み聞かせや**ブックトーク**^{※8}など活用の場面が増えてきました。**司書教諭**^{※9}・図書主任が中心となり、学校司書やボランティアと連携・協力して、学校図書館の活性化を図る取り組みが進んできました。

中学校・高等学校では、図書館で職場体験やインターンシップを行い、職場としての視点から図書館を理解する機会を提供してきました。

〔図書館における子どもの読書活動の推進〕

図書館では、身近な本に親しむ場所として、良質で多様な資料を収集し提供するよう努めました。また定期的なおはなし会や、季節に合わせたイベントを開催し、読書への関心を高めてきました。

学校図書館への支援も積極的に行いました。団体貸出した図書は、朝読書や学級文庫のほか、並行読書・調べ学習など、本を活用した授業に利用されました。学校図書館との連携については、学校図書主任連絡会の定期的な開催により、学校からの要望に対応し情報交換をしてきました。

〔啓発・広報等における読書活動の推進〕

市立図書館では、図書館だよりやウェブサイト、市の広報などで、本に関する情報や図書館行事の提供を行いました。学校図書館では、館内の掲示や委員会活動などで本を紹介し、読書の啓発をしました。

3 第2次計画の位置づけ

この計画は、次のことを基本に策定しています。

- (1) 国の「子どもの読書活動の推進に関する法律」を基本としています。
- (2) 国の「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第2次計画）」及び「静岡県子ども読書活動推進計画（第2次中期計画）」を基本としています。
- (3) 湖西市の基本理念である「明日の湖西を創る“ひと”づくり」の実現に結びつくものです。

※7 「学校司書」……学校図書館が十分活用されるように、図書館を整備し、サービスを行う専門的な知識・経験を有する職員。学校図書館法第6条で、学校への配置が努力義務として定められた。

※8 「ブックトーク」…子どもと本を結ぶため、あらかじめテーマを決めて何冊か本を集め、順序立てて紹介していく方法。

※9 「司書教諭」……学校図書館法に規定された学校図書館の専門的業務にあたる教諭。平成15年度より小規模校を除き、司書教諭の配置が義務付けられた。

4 第2次計画の施策の方向

湖西市は、市内のすべての子どもたちが成長の過程で読書を通じ、読書の楽しさ、大切さを学び、生涯にわたって書物にふれる人になってほしいという願いから、読書環境の整備と読書の習慣づけを推進するよう取り組んでいます。そのため、以下に述べるような、成長過程に応じた「読書環境の整備」、「読書機会の提供」、「読書活動の啓発」等の施策を、家庭、地域、学校を通じた社会全体で取り組みます。

(1)「本に出会い、本を知る」(乳幼児期への働きかけ)

乳幼児期から、子どもが「本と出会い」、「本を知っていくこと」は、読書習慣を身につけていく上で大切なことです。そして、それは本の楽しさを保護者が子どもと分かち合うところから始まります。

- 親子のふれあいを重視した施策に取り組んでいきます。
- 絵本リストの配付等で家庭への啓発に努めます。

(2)「本に親しみ、本を活かす」(就学期への働きかけ)

就学期には、読書習慣を身につけ、本に親しむことによって知識を蓄え、心を豊かにすることが望まれます。それが、社会の中で生きていくための術を得ることや心の支えにもつながります。ここでは図書館が強い味方になります。また、本を通じた友人等との交わりは、さらに読書の味わいを深いものにしていきます。

- 学校全体で読書習慣づくりに取り組む推進体制を整備します。
- 学校図書館の活性化を図るため、資料・設備の充実、人員配置の促進に努めます。
- 家庭や学校での読書活動を支援する市立図書館等、地域の読書環境を整備します。
- 公民館や放課後児童クラブ※10等、地域で子どもを育む取り組みの中で、読書に親しむ活動を推進します。

(3)「本と生き、本を伝える」(成人への働きかけ)

私たちは、日常生活を営んでいく上で誰でも様々な疑問や課題を持ちます。読書はこれらを具体的に、また間接的に解決する手段の一つです。成人してからも生涯にわたって本を傍らに置いて人生を歩むこと、そしてその姿を次世代の子どもたちに伝えていくことが望まれます。

- 大人自身の読書活動を推進するための啓発と環境整備に努めます。
- 保護者に対し、読み聞かせや親子読書など家庭での読書を啓発します。
- 地域における読書普及活動への参加及び理解と協力を呼びかけます。

5 第2次計画の期間

この計画の期間は、平成 28 年度から平成 32 年度までの5年間とします。その間、必要に応じて、見直しを図り、計画を実効性のあるものにしていきます。また、計画の進捗状況を把握するため、毎年 1 回検証を行い、具体的な方策について協議をします。

※10 「放課後児童クラブ」…児童福祉法の規定に基づき、保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生に就学している子どもたちに対し、放課後に適切な遊びや生活の場を与えて、その健全な育成を図ることを目的に設置している。

第2章

子ども読書活動のための具体的な取り組み

1 家庭における子ども読書活動の推進

子どもの生涯にわたる読書習慣の形成には、生活の基盤となる家庭の役割が大変重要です。保護者が子どもの成長に応じて本に親しむ環境をつくり、いっしょに読書をする姿勢をみせることで、子どもが読書に興味をもち、継続的な読書活動へとつながっていきます。

読み聞かせの大切さ

- ・読み聞かせは、親子がふれあえる幸せなひとときです。
- ・いろいろな本との出会い、おはなしの世界を体験することで、想像力や表現力が豊かになります。また、読んでもらうことで、言葉に対する感性を高めます。
- ・おはなしに耳を傾ける体験は、人の話をしっかり聞ける、人の気持ちのわかる健やかな心を育てます。
- ・幼いころからの読み聞かせは心の糧となり、大人になったときの支えや自信につながります。

●ブックスタートに参加しましょう（6か月児とその保護者対象）

- ・赤ちゃんと絵本を開いて温かい言葉で語りかける時間は、親子が心を通わすかけがえのないひとときです。ブックスタートに参加すると、絵本の読み聞かせやわらべうたを親子で体験でき、家庭での読み聞かせのきっかけになります。

●読み聞かせをしましょう

- ・読み聞かせは、人とふれあう喜びや想像する楽しさを知り、豊かな心を育てます。生活の中で、1日5分から10分程度でもよいので、子どもと向き合う時間をつくりましょう。そして家族がお互いに読み聞かせを楽しむ習慣をつくりましょう。

●親子読書をしましょう

- ・親子、家族で楽しみながら本を読むことを心がけましょう。同じ本を読んだり、別々の本を読んだり、読んだ本について話し合うのもよいでしょう。同じ時間、同じ空間を共有することで、家族に会話が生まれ絆が深まります。また、楽しい時間を過ごすことで、心の成長が期待できます。

●身近なところに本がある環境をつくりましょう

- ・子どもが読みたいときにいつでも本が読めるよう、身近なところに本を置きましょう。

●図書館を利用しましょう

- ・読書に親しむことができる身近な施設であり、学習の場、くつろぎの空間でもある図書館を利用してみましょう。
- ・おはなし会 **絵本の読み聞かせ・ストーリーテリング**^{※11} へ参加しましょう。家庭で読むのとは違う雰囲気の中で、参加した子どもたちが感動を共有できます。また、自分では手に取らないタイプの本に出会い、読書に対する興味・関心を広げます。

※11 「ストーリーテリング」…物語を覚えて語って聞かせることで、素話・語りとも言われる。絵本の読み聞かせと違い、お話を聞いて自分で想像しながら楽しむことができる。

2 地域における子ども読書活動の推進

子どもにとって身近な施設である公民館、子育て支援センター等では、子どもが自由に本とふれあい、読書を楽しむための環境整備が必要です。関係機関が図書館と連携して子どもが読書に親しむ多様な機会を提供し、地域で子どもと関わる団体等が読書関連の取り組みをすることを支援します。

●公民館図書室の充実

- ・公民館図書室のPRと図書室機能の充実を図ります。

●子どもが本と親しむ事業の開催

- ・ふたば学級や放課後子ども教室などで、読み聞かせを継続的に実施します。

●子育て支援センターでの読み聞かせの推進

- ・子育て支援センターの事業で、絵本の読み聞かせを継続的に実施します。
- ・絵本コーナーを活用し、絵本と親しむ機会を増やします。

●放課後児童クラブの図書コーナーの充実

- ・図書館の団体貸出を利用して読書の機会を増やします。

●健康福祉センターの絵本コーナーの充実

- ・健診、相談事業等で、年齢（発達）に応じた絵本の紹介をします。
- ・絵本コーナーを活用し、絵本と親しむ機会を増やします。

●国際交流協会での読み聞かせの推進

- ・外国籍の親子を対象に、絵本の読み聞かせを実施します。
- ・図書館の団体貸出を利用して読書の機会を増やします。



3 保育園・幼稚園における子ども読書活動の推進

幼児期に絵本の楽しさと出会うため、保育園・幼稚園の絵本コーナーの充実を図り、子どもの発達段階にそった絵本の読み聞かせを行います。また、保育園・幼稚園での読書体験が、家庭での読書活動に広がっていくよう、保護者への啓発に努めます。

●読み聞かせの実施

- ・年齢（発達）に応じた絵本の読み聞かせを実施します。

●絵本の充実

- ・よい絵本を豊富に揃え、園の絵本環境を整えます。

●保護者への啓発

- ・親子読書や家庭における絵本の読み聞かせの重要性について、保護者への啓発に努めます。



4 学校における子ども読書活動の推進

子どもたちが日常の大半を過ごす学校は、子どもの読書習慣の形成に大きな役割を担っています。子どもが読書の楽しさや良さを感じ、本を活用した自主的な学習活動ができるよう、子どもの成長に応じた読書活動の充実を促進していきます。また、学校図書館が児童・生徒の豊かな心を育む場となるよう、資料の整備と指導体制の整備を行います。

●読書指導の充実

- ・朝読書を継続実施し、読書の習慣づけを図ります。
- ・読み聞かせ、ブックトーク等で子どもと本を結ぶ活動をします。
- ・読書週間等のイベントを実施し、読書に対する関心を高めます。
- ・「学校図書館だより」等で広報活動をします。
- ・静岡県読書ガイドブック『本とともにだち』や、各学校の必読・推薦図書などを活用して読書の推進に努めます。

●学校図書館の資料・設備の充実

- ・学校図書館を読書センター・学習情報センターとして十分機能させるため、図書の計画的な入れ替えを行い、国の 図書標準※12 の達成を目標に、子どものニーズに合った蔵書の充実に努めます。
- ・利用しやすい図書館にするため、分類や書架の配置などの環境整備を進めます。
- ・市立図書館の団体貸出を積極的に利用し、児童・生徒の学習活動の充実を図ります。

●司書教諭の校務分掌等への配慮

- ・司書教諭が本来の役割を果たすために、教職員間の協力体制を築き、司書教諭としての業務ができるように配慮します。

●学校図書館ボランティアの活動支援

- ・読み聞かせや学校図書館整備を行うボランティアの活動を支援します。



※12 「図書標準」…公立義務教育諸学校の、学校図書館に整備すべき蔵書の標準として平成5年に設定されたもの。

5 図書館における子ども読書活動の推進

図書館は、子ども読書活動の推進拠点としての役割を担っています。子どもが本と出会い、本の楽しみを知り、さまざまな読書体験ができるよう、読書環境を整備し、子どもと本を結ぶ事業を継続します。地域・保育園・幼稚園・学校と連携協力して、家庭での読書活動を支援していきます。

●読書環境の整備

- ・読書案内や調べ学習など様々なサービスに対応できるよう、古くなった資料の入れ替えなどを計画的に行い、魅力的な蔵書構成を目指します。
- ・中高生が本に興味を持つ機会をより多く提供するため、ティーンズコーナーの資料を充実させ、利用しやすい環境をつくります。
- ・季節や行事に合わせたテーマ展示で、様々なジャンルの本を紹介し、本への関心を高め、利用を促進します。
- ・児童担当職員は、資料の選択・収集・提供、読書相談などに対応できる専門的知識と技術が必要とされます。そのため、研修会などに積極的に参加して資質向上に努めます。

●子どもが本に出会える事業の推進

- ・ブックスタート事業で、乳幼児期からの本との出会いの大切さや、絵本を読む楽しさなどを保護者に伝え、家庭での読み聞かせのきっかけをつくります。
- ・おはなし会等で子どもが本の楽しさに触れる機会を定期的に提供していきます。
- ・子ども読書の日（4月23日）や読書週間（10月27日～11月9日）を中心に、読み聞かせや推薦図書展示などの本に関わるイベントを開催し、読書への関心を高めていきます。

●読み聞かせボランティアの育成

- ・図書館や地域で読み聞かせをするボランティアの養成講座を開催します。
- ・ボランティアの研修や情報交換の場を設け、活動を支援します。

●団体貸出の利用促進

- ・子どもたちの身近に本があり、親しむことができるよう、地域の施設や保育園・幼稚園、学校等に団体貸出を行います。
- ・学校図書館と連携し、図書に関する情報交換を行い、朝読書や調べ学習などの授業支援のための団体貸出を実施します。

6 啓発・広報等における読書活動の推進

家庭・地域・学校等における子どもの読書活動を推進していくためには、読書活動の楽しさや必要性、重要性等について、理解を広めていくことが重要です。地域社会全体に読書活動の重要性を広く啓発し、子どもの読書活動について情報発信していきます。

●多様な啓発活動

- ・市のウェブサイトや広報、学校のおたより等で啓発・広報に努めます。

●読書啓発活動の実施

- ・子ども読書の日、読書週間に合わせ、学校、図書館等で読書啓発活動を実施します。
- ・四季折々の行事にふさわしい展示やイベントを通して、読書の啓発に努めます。

湖西市子ども読書活動推進計画策定委員会

No.	役職	氏名	備考
1	委員長	落合 さち	社会教育委員長
2	副委員長	片山 ひとみ	図書館運営協議会代表
3	委員	青島 智深	図書館ボランティア連絡会代表
4	委員	松坂 明子	学識経験者(高校代表)
5	委員	杉浦 よしみ	幼児教育課長
6	委員	渡辺 宜宏	学校教育課長
7	委員	朝倉 陽美	社会教育課長

任期：平成27年8月27日～原案作成まで

第1回 子ども読書活動推進計画策定委員会会議録

開催日時：平成 27 年 9 月 3 日（木）15 時 30 分～16 時 45 分

開催会場：湖西市立中央図書館 学習研修室

出席者：委員／落合 さち・片山 ひとみ・青島 智深・松坂 明子
杉浦 よしみ・渡辺 宜宏・朝倉 陽美（7 名）
事務局／山下 宗茂（教育長）・落合 進（教育次長）
山本 茂明（館長代理）・原田 満由美

「会議内容」

- 1 教育長あいさつ
- 2 委嘱状及び辞令の交付
- 3 委員長、副委員長の選出 委員長 落合さち、副委員長 片山ひとみ
- 4 協議事項

(1) 第1次計画の取り組みと成果について（事務局より説明）

- ・乳幼児期、小学校就学前・就学期、中学校・高等学校就学期のそれぞれに対する取り組みと成果についての説明
 - ・努力目標（数値目標）に対する達成状況とその要因についての説明
- 達成した項目（図書館の児童図書の蔵書冊数、図書館の児童図書の貸出冊数、読み聞かせ講座への参加率）と達成できなかった項目（1か月の目標読書冊数、本を読むことが好きだと答えた割合、図書標準を達成している学校数の割合、図書館司書が訪問指導する回数、ブックスタートパックの配布率、おはなし会への参加率）

(2) 今後のスケジュールについて（事務局より説明）

策定委員会は5回ほど予定しており、できれば原案を平成 28 年2月の教育委員会に上程したい。

(3) その他

- 〈委員〉幼稚園、保育園、小学校、中学校、ブックスタートにおける外国人の割合はどのくらいか？
- 〈委員〉蔵書冊数、貸出冊数、おはなし会参加者数など、中央図書館と新居図書館の比率はどのくらいか？
- 〈事務局〉詳細な数値については、次回に報告する。
- 〈委員長〉以上で第1回策定委員会を終了する。

第2回 子ども読書活動推進計画策定委員会会議録

開催日時：平成 27 年 9 月 17 日（木）15 時 30 分～16 時 45 分

開催会場：湖西市立中央図書館 学習研修室

出席者：委員／片山 ひとみ・青島 智深・松坂 明子・杉浦 よしみ
渡辺 宜宏・朝倉 陽美（6 名）
事務局／山下 宗茂（教育長）・落合 進（教育次長）
山本 茂明（館長代理）・原田 満由美

「会議内容」

- 1 教育長あいさつ
- 2 副委員長あいさつ（委員長欠席のため、副委員長が議事を進行）
- 3 協議事項

(1) 第1回策定委員会での質問に対する回答について（事務局より説明）

- ・外国籍の子どもの人数について
小学校は 3,270 人中 108 人で 3.3%、中学校は 1,796 人中 57 人で 3.2%、幼稚園は公立のみで 806 人中 10 人で 1.2%、保育園は 927 人中 58 人で 6.3%。ブックスタートは対象者が 484 人中 29 人で 5.9%、このうち 11 人に絵本を手渡した。

・中央図書館と新居図書館の比較

中央を 100 とした場合の新居の比率は、5年間の平均で、貸出点数は 40.9、貸出人数は 47.3、蔵書冊数は 53.1 となっており、おはなし会の参加者数は3歳までが 94.7、4歳以上が 70.8 となっている。

(2) 第1次計画の検証に対する意見について

- 〈委員〉県のようなキャッチフレーズ「読書県しずおか」のようなものが必要では？
情報をホームページで提供していくとか、公式のツイッターやフェイスブックを活用したらどうか。
- 〈委員〉外国籍の子どもや障害者への取り組みが今後の計画に必要ではないか？
広報に図書館に関する記事は載っているが、新聞の影響は大きいので、もっと新聞を活用して欲しい（新聞による広報）。本が好きになるためには、保護者が子どもと一緒に図書館に足を運ぶことが大切である。
- 〈委員〉小中学校での取り組み（朝読書・ボランティアの読み聞かせ・百人一首大会）を継続していくことの大切さを改めて感じた。家庭で本を読む環境づくりのため、保護者に対する啓発（図書館だより）をしていきたい。
- 〈委員〉多くの園で絵本を貸し出して家庭で読み聞かせをしてもらっているが、市内のすべての園（公立・私立）で足並みを揃えるのは難しい。すべての子どもたちに本と親しむ機会となると、民間の協力が必要である。外国籍の子どもは保育園が多く、大きくなるにつれ言葉の壁など問題が出てくる。読み聞かせの大切さについて、3～5年に一度講演会を開催し、保護者に伝えている。また、高校生や保護者のボランティアによる読み聞かせをお願いしている。
- 〈委員〉朝読書の時間も定着してきているが、中学生は授業数も増え、運動も必要であり、目標読書冊数に達していない。図書館の利用について、自宅から遠いとなかなか行くことができない。巡回図書のように図書館の本がクラスにいつもあって身近に触れることができれば、親しみがわくのではないか。
- 〈委員〉計画自体が浸透していないように感じる。今まで講師にお願いしていた事業をボランティアで行うなど、図書館との連携を考えている。
- 〈教育長〉図書館に来てもらうのが目的ではなく、本を読む習慣をつけ図書館を利用し、大人になっても図書館を活用してくれるというのが、自然な形ではないか。図書館だけの話ではなく、幼稚園でも家庭でも本があり、一体となって読書習慣をつけるという計画が必要ではないかと思う。
- 〈委員〉本を読むことにポイントをしぼる、というのはよくわかるが、本を読んでいない人を、いかに本を読む習慣をつけるかということが必要である。
- 〈委員〉親御さんにアプローチするのは必要なことだと思う。親に読み聞かせや読書の効用をきちんと伝えながら、家庭で本を読んでもらうようになれば、違った展開になるのではないか。それを具体的にどのように計画していくのが、この計画の基本になると思う。
- 〈委員〉絵本は 100 回読みこなすとその良さが分かってくると言われる。継続が大切である。ブックスタートでは、絵本を読むと赤ちゃんも保護者も楽しいとすることができる。子どもの表情を見て、喜んでいると実感できれば、家庭でも読んであげたいと思うようになる。
- 〈委員〉図書館で中高生向けのイベントを開催しているか。開催していればPRしていきたい。
- 〈事務局〉ティーンズコーナーとして本は用意しているが、イベントは開催していない。
- 〈副委員長〉委員の皆さんより意見が出たので、事務局で内容について検討して、次回提案してほしい。以上で終了する。

第3回 子ども読書活動推進計画策定委員会会議録

開催日時：平成27年12月11日（金）15時30分～17時

開催会場：湖西市立中央図書館 学習研修室

出席者：委員／落合 さち・片山 ひとみ・青島 智深・松坂 明子

杉浦 よしみ・渡辺 宜宏・朝倉 陽美（7名）

事務局／山下 宗茂（教育長）・落合 進（教育次長）

山本 茂明（館長代理）・原田 満由美

「会議内容」

1 教育長あいさつ

2 委員長あいさつ

3 協議事項

(1) 施策の方向と取り組みについて

- 〈委員長〉 施策の方向と取り組みについて意見を伺いたい。まず、子どもたちが自主的に読書活動ができるような環境の設定で、まず家庭で行っていることを話してほしい。
- 〈委員〉 ブックスタートではブックスタートの意味を最初に説明し、お母さんの声が子どもに心地よいことも説明している。参加していない人にはそのことが分からないので、「図書館に行ってみては」などの声掛けが必要ではないか。
- 〈委員〉 ブックスタートに来ない人の理由が分からない。アンケートをとってみれば原因が分かるのではないか。
- 〈事務局〉 今年からふたば学級でアンケートをとるようにした。ブックスタートになぜ来なかったかなどの項目があるが集計はまだとっていない。
- 〈委員長〉 ふたば学級の参加は希望者のみなのでその辺にも手を入れる必要があるが、お母さん達がきちんと読み聞かせの必要を感じる啓発をしていくことが大切だと思う。
- 〈委員〉 情報発信としてスマホとかのメディアを使う方法があるが、今はパソコンではなくスマホが主流になっていると思う。
- 〈教育長〉 ウェブサイトでアップされているものはスマホで検索すれば表示されるようになっている。図書館のイベントについても検索すればヒットするようになっている。スマホとパソコンが別という訳ではない。情報は出てくるはずである。
- 〈委員〉 若いお母さんは居場所を探しているので、そのような人を取り込めば口コミで広がるのではないか。
- 〈委員長〉 母親自身が読書の必要性や楽しさを感じていれば、家でも本を読むという姿勢ができてくるのではないか。
- 〈委員〉 絵本を読んでいる人は文字を追っているもので、子どもの表情は見えない。絵本を読んでいる時の子どもが喜んでいる姿を写真で見せてあげると、親は絵本でこんなに子どもが喜ぶのが分かる。
- 〈委員〉 ほんの5分だけでも、寝る前に1冊読んであげると子どもは喜ぶ。
- 〈委員〉 ブックスタートを土曜日に開催すると、お父さんの参加がとても多い。お父さんが育児に参加するとお母さんに余裕が生まれ、表情を見ることができる。
- 〈委員〉 高校では、生徒向けに作成していた図書館だよりを、保護者にも読んでもらえるように意識して作成している。
- 〈教育長〉 何かイベントをしなくてはいけないとか、どの家庭でも必ず本を読まなくてはいけないとは思っていない。ただ、何かあった時に本を読もうという発想が身につけばよい。それには親御さんの影響が一番だと思う。家庭で親御さんができることを計画に盛り込むことが大切で、市民の方がこの計画を理解してくれるものにしたい。
- 〈委員〉 「ブックスタートに参加しよう」「おはなし会に参加しよう」「図書館の魅力に触れてみよう」でよいのではないか。具体的なことだけ載せればよいと思う。

- 〈委員〉お父さんの参加をうまく計画に入れていけたらよいと思う。おじいちゃん、おばあちゃんでも参加できるような表現があるとよい。
- 〈委員〉読書することの良さがどこかに書かれていないといけないのでは。絵本を読んでもらうことで心が豊かになり、想像力が広がる。本を読むことで世界が広がって言葉の獲得にもつながる。なぜ本を読むことが必要なんだということが絵でわかりやすく書いてあると、家庭での推進につながるのではないか。
- 〈委員〉たくさん読むよりも、一生好きな本があることが大事である。「マイブックをつくらう」というのはどうか。
- 〈委員長〉まず冊子を作成するにあたって、高校生までを含めた家庭でできることで何かあるか？ 今後については対象を絞って進めていく。地域や学校でも具体的にできることがあれば考えておいて欲しい。
- 〈委員〉退職した方が、地域の皆さんに自分の蔵書を開放している。そういうことが地域の読書活動ではないか。
- 〈委員長〉行政でできることは各担当にお願いし、次回までに事務局にまとめてもらう。以上で終了する。

第4回 子ども読書活動推進計画策定委員会会議録

開催日時：平成28年1月13日（水）15時30分～16時50分

開催会場：湖西市立中央図書館 学習研修室

出席者：委員／落合 さち・片山 ひとみ・青島 智深・杉浦 よしみ
渡辺 宜宏・朝倉 陽美（6名）

事務局／山下 宗茂（教育長）・落合 進（教育次長）
山本 茂明（館長代理）・原田 満由美・鈴木 やよい
兵藤 友美

「会議内容」

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 協議事項

(1) 施策の方向と取り組みについて

- 〈委員長〉家庭における読書活動推進について、「読み聞かせの習慣化」「身近なところに本を置く」「親子読書」「図書館を利用する」の4項目あげているが、ご意見があれば伺いたい。
- 〈委員〉内容的にはよく作られているが、表現を変えてほしいところがある。
- 〈委員長〉家庭における取り組みは、家族がこれを見た時にわかる言葉のほうがいいような気がするので、「～しましょう」という促す表現の方がよいと思う。
- 〈委員〉ブックスタートが最後に記載されているが、順番としては最初の方がよいのではないか？
- 〈委員長〉修正点が出されたので、次回までに修正するということで、内容的にはこれでよろしいか？ 次に地域における推進については、各課長から説明をお願いする。言葉が具体的でなくても、こうしているということがかればよい。その辺りもう一度考えてほしい。幼稚園・保育園について説明をお願いする。
- 〈委員〉いい絵本をとにかく読み聞かせをするのが一番である。そして、保護者への啓発をなるべくしていく。
- 〈委員長〉まず最初にブックスタートで親に啓発して、次に保育園・幼稚園で読み聞かせをし、小学校へという流れの中での推進でよいと思う。「読み聞かせ」と「絵本の充実」と「保護者への啓発」の3点に尽きる。学校について説明をお願いする。

- 〈委員〉学校における読書活動の推進は、小学校や中学校の段階を考えながら、現在の活動を継続して実施する。ボランティアも継続的に学校が支援する。
- 〈委員長〉図書館について説明をお願いします。
- 〈事務局〉図書館における推進を「読書環境の整備」「子どもが本に出合える事業の推進」「読み聞かせボランティアの育成」「団体貸出の利用促進」の4つに分けた。啓発・広報の推進については、多様な啓発活動と読書啓発活動の実施を挙げている。
- 〈委員長〉ここはよろしいか？
- 全体を通して言葉の表現とか、順番については次回に事務局で検討したものを委員会で検討することにする。
- 第1次計画では目標値があったが、数値目標はあったほうがよいか？
- 〈委員〉今まで5年間これ为目标にやってきて、なくなってしまうと確認する場所がなくなってしまう。
- 〈教育長〉とにかく第2次計画では毎年振り返りを行って検討する。例えばアンケート調査などをもとにして検証するのであれば、あえて数値は必要ないのかもしれない。
- 〈委員〉児童図書は図書館を見るとすごく充実していると思う。これ以上増やす必要があるか。
- 〈事務局〉前回の時は書架にも余裕があったので、子どもの本を増やしていこうという考えはあった。今の時点では目標値を達成している。
- 〈委員〉県の計画では目標値が上がっているの、その目標値は出したほうがよいのではないか。
- 〈委員〉目標を作るとそれを上回っていかなければならないことになる。ある項目は限界状態になっている。
- 〈委員〉そういった意味では毎年の振り返りをする中で、ある程度の情報を持っていれば表にしなくてもいいという気はする。
- 〈委員〉ブックスタートというところを見ると、乳幼児を持つ人たちにアンケートをとったほうがいい。そのことによって実態や何が必要なのか気がつかなかったことが分かってくる。
- 〈事務局〉ふたば学級の時にアンケートをとったが、ブックスタートに参加した方がほとんどだった。そうでない人をどうやって拾うかが難しい。
- 〈委員〉子育て支援センターが事業をかなり行っている。ブックスタートの資料と連携して啓発していけばいい。啓発の仕方をみんなで考えていけばいい。
- 〈委員長〉単独でやっているのはもったいないので、他の機関と協力して、一つだけでなくまだ他にもそういった項目があれば作っていく方向で考えていく。以上で終了する。

第5回 子ども読書活動推進計画策定委員会会議録

開催日時：平成28年2月16日（火）15時30分～16時40分

開催会場：湖西市立中央図書館 学習研修室

出席者：委員／落合 さち・片山 ひとみ・青島 智深・松坂 明子
杉浦 よしみ・渡辺 宜宏・朝倉 陽美（7名）

事務局／山下 宗茂（教育長）・山本 茂明（館長代理）
原田 満由美・鈴木 やよい

〔会議内容〕

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 協議事項

(1) 施策の方向と取り組みについて

事務局から事前に配布した資料の中の修正箇所を説明する。

- 〈委員長〉前回は、語尾の統一とブックスタートの順番とわかりやすい表現について課題が出ていた。その辺りが修正されていると思うが、意見はあるか？
- 地域における推進に、「国際交流協会での読み聞かせの推進」として、「外国籍の親子を対象にする」も加えてある。

- 〈委員〉図書コーナーに何冊かを貸し出して、また違うものを持っていったりとかいうイメージはあるか？
- 〈事務局〉まず、おはなし会を開催して、子どもたちは日本の絵本をすぐ読めるようになると思うが、そうなってくればそこを拠点として絵本を貸し出していくこともあると思う。
- 〈委員長〉そういったものがある程度用意できるだろうという見通しの中で、ここに入れていく。その他ご意見や修正点はあるか？
意見も出尽くしたので取り組みについてはこれでいきたいと思う。

(2) 基本方針について

- 〈委員長〉基本方針について事務局の説明をお願いします。
- 〈事務局〉前回に案として配布したが、事務局側でも再度見直しを図り、修正した。
- 〈委員長〉第1次計画のときは、読書の環境づくりの取り組みが中心になっていたが、第2次計画は読書環境の整備、読書機会の提供、読書活動の啓発を進めていくという内容が、具体的に全部盛り込まれていたと思う。委員さんからいただいたご意見を元に修正をするということで、基本方針についてはよろしいか？
…委員から了解との声あり。

(3) 冊子、リーフレットについて

- 〈事務局〉冊子については修正する資料に、委員名簿と議事録を加えて完成となる。イラストなどを挿入するのもよいと考えている。またリーフレットについては全戸配布を考えている。
- 〈委員長〉リーフレットが全戸配布になるのなら、もっとやわらかい文面で、言葉も短くしてほしい。本当に大切なキャッチコピーみたいなものも出してほしい。また、関心がなかった人が少しでも関心を持ってもらえるようなリーフレットを作ってほしい。
- 〈委員〉冊子の配布については幼稚園、保育園に配って、趣旨を知ってもらいたい。
- 〈委員長〉資料を配る時に分けて終わりという分け方ではなく、これは大切なものだからこのように使ってくださいと説明しながら、丁寧に配布して欲しい。
- 〈委員〉リーフレットについても、ふたば学級のほうでこのようなものが配られたとPRしていく。
- 〈委員長〉後押ししていくことが必要である。配布物も多いので、気がついた度に後押しをしていく。全体を通して何か意見等あるか。資料については事務局一任ということでよろしいか？
…委員から了解との声あり。
- 〈事務局〉では、委員から修正がかかった部分については事務局にご一任ということで、冊子とリーフレットについてはいいものを作っていききたい。
来年度から5年間の計画ができるが、これで終わりではなく、1年ごとに必ず振り返りを行っていきたいと考えている。

子どもの読書活動推進のための取り組み

— いつでも どこでも 本となかよし —

図書館・保育園・幼稚園・学校・地域が連携して、家庭における読書活動を推進します。

図書館

- 読書環境の整備
・蔵書の整備と充実・専門職員の資質向上
- 子どもが本に出会える事業の推進
・ブックスタート・おはなし会
・各種イベントの開催
- 読み聞かせボランティアの育成
- 団体貸出の利用促進

家庭

- ブックスタートに参加しましょう
- 読み聞かせをしましょう
- 親子読書をしましょう
- 身近なところに本のある環境をつくりましょう
- 図書館を利用しましょう

学校

- 読書指導の充実
- 学校図書館の資料・設備の充実
- 司書教諭の校務分掌等への配慮
- ボランティアの活動支援

保育園・幼稚園

- 読み聞かせの実施
- 蔵書の充実
- 保護者への啓発

地域の関係機関

- 公民館図書室の充実
- 子どもが本と親しむ事業の開催
- 子育て支援センターでの読み聞かせの推進
- 放課後児童クラブの図書コーナーの充実
- 健康福祉センターの絵本コーナーの充実
- 国際交流協会での読み聞かせの推進

第2次 湖西市子ども読書活動推進計画

— いつでも どこでも 本となかよし —

平成 28 年 3 月

策 定 湖西市教育委員会／湖西市子ども読書活動推進計画策定委員会
編集・発行 湖西市教育委員会／湖西市立図書館

TEL.053-576-4351 FAX.053-576-1100